

平成 29 年 6 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 29 年 5 月 31 日（水） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、
NHK、BBT、NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 第 68 回全国植樹祭を終えて

今回の植樹祭では、魚津市民をはじめ大勢の方々が、この大会の成功にむけて頑張っていたことに感謝している。朝方には天候を少し心配したが、結果としては天候にも恵まれ大きなハプニングなく大会が終えられたことを本当に嬉しく思っている。

植樹祭を契機に、魚津の自然や文化を生かした地域活性化の取組を、更に市民の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 新川創生プロジェクト「地域を支える若者育成」

荒井学園、富山大学、魚津市が連携協力覚書締結

この締結のポイントは、「地域人材育成」と「地元定着」の 2 点である。人口減少していく社会の中であって、この地域で主体的に地域づくりや地域産業に従事していく、または関わっていく人材を確保して育てていくことが大切だと思っている。

その共通認識のもとで、今般、富山大学、荒井学園、魚津市が協力した取組を行うというものである。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 6 月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

総事業費 103,733 千円（うち一般財源 36,768 千円）

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・宝くじスポーツフェア ドリームサッカーin 魚津
- ・第1回 Brisk Walking2017 in しんきろうロード
- ・ミュージアムキッズ！全国フェア（熊本県）※魚津市ブース有
- ・「たてもん協力隊」の募集

〈企画総務部長〉

- ・6月魚津市議会定例会（6/8～6/22 会期16日間）
- ・平成29年度第3回水の学び舎ツアー
「魚津のうまいもん！ゆたかな水利用と先人の思いを巡る」
- ・ほんごう未来会議（第1回）

〈民生部長〉

- ・アースディにいかわ2017
- ・魚津神社春季例大祭(防犯パトロール等を実施)
- ・親子ほっとカフェ

〈産業建設部長〉

- ・平成29年度魚津市危険箇所パトロール（※土砂災害危険箇所）
- ・ホテルの集落解放（ミラージュランド）

3. 質疑応答の内容

「魚津スイーツ&蜃気楼ライブカフェ」

《記者からの質問》

「魚津スイーツ&蜃気楼ライブカフェ」については、ねらいは、埋没林博物館の集客のテコ入れなのか、近隣・地元の人たちの親子等の居場所づくりであり、魚津水族館のアクアリウムのカフェ版のようものなのか。

《回答》

埋没林博物館の利用状況をみると、県内外の高齢者福祉施設の方々や、町内会、老人会が、バスで見学に来るなどの利用は多くあるが、地元の子どもや若い人たちの利用は減っている。まずは、地元から使われて愛される施設になるということが大事であるということであること。また、埋没林博物館に、これまでゆっくり過ごすような場がなかったのでそういう場がほしいという、その両方の意味合いでカフェの設置を企画した。

《記者からの質問》

魚津の特産果実を使ったスイーツが、売りであり看板になるのか。

《回答》

せっかくカフェを作るのであれば、特色が必要であると考えている。近隣に、海の駅

蜃気楼があるので同じようなことをやっても意味がない。魚津の果樹というのは大きな特色なので、それを活かしたメニューを出すことができればと考えている。

《記者からの質問》

地元の利用を考えているのであれば、その度に埋没林博物館の入館料を支払わなければいけないのはいかがなものか。屋外からカフェに直接入れるようなことも検討しているのか。

《回答》

もともと埋没林博物館は、有料の入館施設であるため、どのようなアクセスにするかは検討事項のひとつである。自分としてはカフェ部分については自由に出入りできるようにしたいと思っているが、物理的にどういうふうになればその導線を確認できるのかを検討しているところである。

《記者からの質問》

蜃気楼ライブモニターは、カフェスペースにモニターを設置するということか。

《回答》

いつも天気がいいとは限らないので、カフェ店内にモニターを設置し映像を流す。天気がいいときはライブ映像を流す。

《記者からの質問》

現在、埋没林博物館の蜃気楼ライブカメラは、富山方向と黒部方向の2台であるが、新湊大橋に向けたカメラの増設などは考えていないか。

《回答》

現在の蜃気楼ライブカメラについては、カメラの更新に併せて、性能をあげてクリアな映像を流せるようなものにする予定である。また、新たに1台、新湊大橋に向けたカメラを増設する予定である。

《記者からの質問》

防災無線などを使って蜃気楼情報を流しているが、今年、蜃気楼見物客が増えているという実感はあるか。

《回答》

データを見たわけではないが、Bランクの蜃気楼も3回発生していることもあり、見物客は増えていると思われる。

「たてもんと全国植樹祭レガシー事業」

《記者からの質問》

たてもんと全国植樹祭レガシー事業としてとして当初予算に計上しているが、植樹祭のレガシー事業について、現在、市長はどのようなイメージをもっているか。また、いつ頃形になるのか。

《回答》

レガシー事業の一番のポイントは後継者・担い手の育成である。そして、人口が減っていく中で支えきれなくなる文化行事をどのような仕組みで支えていくかであ

る。その象徴的な取組として「たてもんの森」をつくり、それをシンボルの事業として後継者育成のソフト事業とセットで取り組んでいくという考え方でいる。その時に、魚津市在住者だけでなく、できれば魚津を離れている故郷を想う人たちにも呼びかけて応援してもらいたいと考えている。このようなフレームで現在組立をしていて、もう少し時間がかかる。

《記者からの質問》

いまの回答は、どちらかというたとてもんに関するレガシー事業のことだと思うが、植樹祭に関するレガシー事業として、例えば「お野立所」を記念碑的に残すなど、植樹祭があったことに対しての事業は何か考えているか

《回答》

たてもんのことを言ったのは、たてもんは全部木材出できており、森の取組と、海に関する取組を結んでという意味でレガシーにしようと考えている。お野立所所の活用についても、当初予算で既に計上している。具体的にどういった展開にするかは、現在検討中である。プランニングが出来たら発表していきたいと考えている。

「魚津の食のブランディング事業」

《記者からの質問》

地域商社設立については、どちらかというたと魚津市が主導的に動くイメージのものになるのか。また、全国で前例はあるのか

《回答》

これから調査に入るところではあるが、今の目標としては、2～3年を目途に自立していく組織にしようというイメージである。最初は、行政が関わって組織立てや事業展開の設計図を作り、2～3年、それを回して行って、最終的には、民間ベースで自立していく形で考えている。全国には、全てがうまくいっているわけではないが100件程の前例がある。

《記者からの質問》

地域商社は市が出資するのか

《回答》

株式会社、合同会社など組織の形態は色々あるが、どういう形態にするかはまだ決めていない。今年の調査・研究のなかで検討していく予定である。出資が必要な形態になれば、そのようになるが、現在はまだわからない。

《記者からの質問》

可能性としては、アドバイザー的な立場になることもあるのか

《回答》

そのような形になることも考えられる。

《記者からの質問》

地域商社は、新規開拓のものなのか、既存のものをブランディングしようとする

ものなのか。

《回答》

なぜ、いま魚津市がこれに取り組もうとしているのかというと、中板橋の「うおづや」の取り組みにも関連している。「うおづや」は民間ベースでいろいろな取組をしていて、魚津から食材を運んで、食を提供したり、それ以外に魚津情報も出したりしていただいている。魚津市にとっては、一つ首都圏に拠点がある形になっている。実際に物が運ばれていることから、細いが流通経路がある。

これをしっかり活かす形にするため、魚津で地域の商品を使った新しい商品開発をし、その流通経路を太くし、場合によっては他の店舗でも扱ってもらうような展開にしていきたい。

その根っこの部分の、魚津での商品開発や企画をしっかりと地元のみなさんが協力してやっていき、向こうで宣伝や販売したりする部分の機能は、既に民間にあるので、それを一つのテコとして展開しようというのが、今回の地域商社という考え方に至った理由である。

県のような大きなアンテナショップをもったところであれば必要はないと思うが、小規模自治体である魚津市としては、規模にあわせたやり方を考えなければいけないので、今回このような取組を内閣府等に提案していった。

《記者からの質問》

アンテナショップで受けが良い商品が見つければ、それで行こうという話になるのか。あくまでも新規に拘っているわけではないのか。

《回答》

もちろんそのとおりで、新規に拘っているわけではない。

「一年経っての市長の公約の実現度」

《記者からの質問》

就任から1年ちょっと経って、この1年を振り返られて、ご自身で公約の実現度はどのように評価されるか

《回答》

いろいろと苦労しているのは事実だが、選挙時に公約に掲げたことについては、何某かは前進できる足がかりは作ってきているのではないかとは思っている。正直なところアクションに移ることができるのは今年の予算からだったと思うので、そういう意味では、完成したというものはないかと思うが、小さいかもしれないが着実に歩みをすすめていると考えている。

《記者からの質問》

苦労している部分は、やはり財源問題であるのか。

《回答》

もちろん財源もあるが、これまでの事業の流れもあるので、いきなり大きく展開しにくい面もある。

《記者からの質問》

足がかりはできたということであるが、準備委員会等を今年予算化しているが、本当にいつ実現できるのかというところが課題事項であるのか

《回答》

何年かかって、それが実現できたのかということ、市民がどう評価するかということになると思うが、自分としては着実に進めていきたいと考える。特に産婦人科の話などは失敗できないので、着実に進めて実現させるという強い思いである。